

浜の活力再生プラン
令和 7 ～ 1 1 年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会 ID 1123008

組織名	那智勝浦町地域水産業再生委員会
代表者名	島 由彦 (那智勝浦町役場農林水産課長)

再生委員会の構成員	宇久井漁業協同組合 紀州勝浦漁業協同組合 和歌山東漁業協同組合 (浦神支所・那智支所) 那智勝浦町 那智勝浦町水産振興会 那智勝浦観光機構 南紀くろしお商工会
オブザーバー	和歌山県漁業協同組合連合会 和歌山県東牟婁振興局 和歌山県水産試験場

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>【地域の範囲】 那智勝浦町 (管内漁協は下記のとおり)</p> <p>【漁業の種類】</p> <p>曳縄漁業者数</p> <table> <tr><td>宇久井漁協</td><td>10名</td></tr> <tr><td>紀州勝浦漁協</td><td>8名</td></tr> <tr><td>和歌山東漁協那智支所</td><td>6名</td></tr> <tr><td>和歌山東漁協浦神支所</td><td>30名</td></tr> <tr><td>計</td><td>54名</td></tr> </table> <p>イセエビ刺網漁業者数</p> <table> <tr><td>宇久井漁協</td><td>13名</td></tr> <tr><td>紀州勝浦漁協</td><td>24名</td></tr> <tr><td>和歌山東漁協那智支所</td><td>5名</td></tr> <tr><td>和歌山東漁協浦神支所</td><td>13名</td></tr> <tr><td>計</td><td>55名</td></tr> </table> <p>採貝・採介藻漁業</p> <table> <tr><td>宇久井漁協</td><td>3名</td></tr> <tr><td>紀州勝浦漁協</td><td>3名</td></tr> <tr><td>和歌山東漁協那智支所</td><td>5名</td></tr> <tr><td>和歌山東漁協浦神支所</td><td>12名</td></tr> <tr><td>計</td><td>23名</td></tr> </table> <p>定置網漁業</p> <table> <tr><td>宇久井漁協</td><td>1経営体</td></tr> </table> <p>合計 132名、1経営体 (令和5年12月31日 現在)</p>	宇久井漁協	10名	紀州勝浦漁協	8名	和歌山東漁協那智支所	6名	和歌山東漁協浦神支所	30名	計	54名	宇久井漁協	13名	紀州勝浦漁協	24名	和歌山東漁協那智支所	5名	和歌山東漁協浦神支所	13名	計	55名	宇久井漁協	3名	紀州勝浦漁協	3名	和歌山東漁協那智支所	5名	和歌山東漁協浦神支所	12名	計	23名	宇久井漁協	1経営体
宇久井漁協	10名																																
紀州勝浦漁協	8名																																
和歌山東漁協那智支所	6名																																
和歌山東漁協浦神支所	30名																																
計	54名																																
宇久井漁協	13名																																
紀州勝浦漁協	24名																																
和歌山東漁協那智支所	5名																																
和歌山東漁協浦神支所	13名																																
計	55名																																
宇久井漁協	3名																																
紀州勝浦漁協	3名																																
和歌山東漁協那智支所	5名																																
和歌山東漁協浦神支所	12名																																
計	23名																																
宇久井漁協	1経営体																																

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

那智勝浦町は本州最南端和歌山県の南東部に位置し、熊野灘に面している。沖合には黒潮が流れており温暖な海域で、黒潮からの暖水流入により沿岸部との境界に形成される潮境には、浮魚類の好漁場が形成される。また、「延縄漁法による生鮮まぐろ水揚日本一」の勝浦漁港を有し、県内外から多くのまぐろ延縄船が来港している。沿岸に生息する魚介類の種類も豊富で、ケンケン漁（曳縄漁）やイセエビ刺網漁業、採貝・採介藻漁業を中心に様々な漁業種類が営まれている。なかでも、令和元～2年度に和歌山県が熊野灘海域に設置した表層型浮魚礁により、曳縄漁の操業が効率化されている。

一方、漁業者の高齢化と後継者不足による漁業者人口減少が著しく、漁業センサスによると、那智勝浦町の漁業就業者数は平成17年の202人から令和2年の115人と6割弱に減少しており、漁村機能のあり方も転換期を迎えている。

漁場環境は、平成29年から7年9か月続いた黒潮大蛇行の影響によって沿岸域へ暖水が流れ込み、高水温傾向が続いており、磯焼けが深刻化している。稚仔魚の生息域や貝類の餌場となる藻場の育成が重要な課題となっている。また、多くの魚種では魚価が低迷し、燃油単価も高い状態が続き、漁家経営は厳しい状況が続いている。

(2) その他の関連する現状等

那智勝浦町地域水産業再生委員会が構成員となっている南紀黒潮広域水産業再生委員会において、イセエビのブランド化の取組を進めていたが、漁獲量の低下に伴い、ブランド化とともに販売方法の工夫にも取り組んでいる。なお、令和6年ふるさと納税では212件、5,812千円の寄付が集まった。

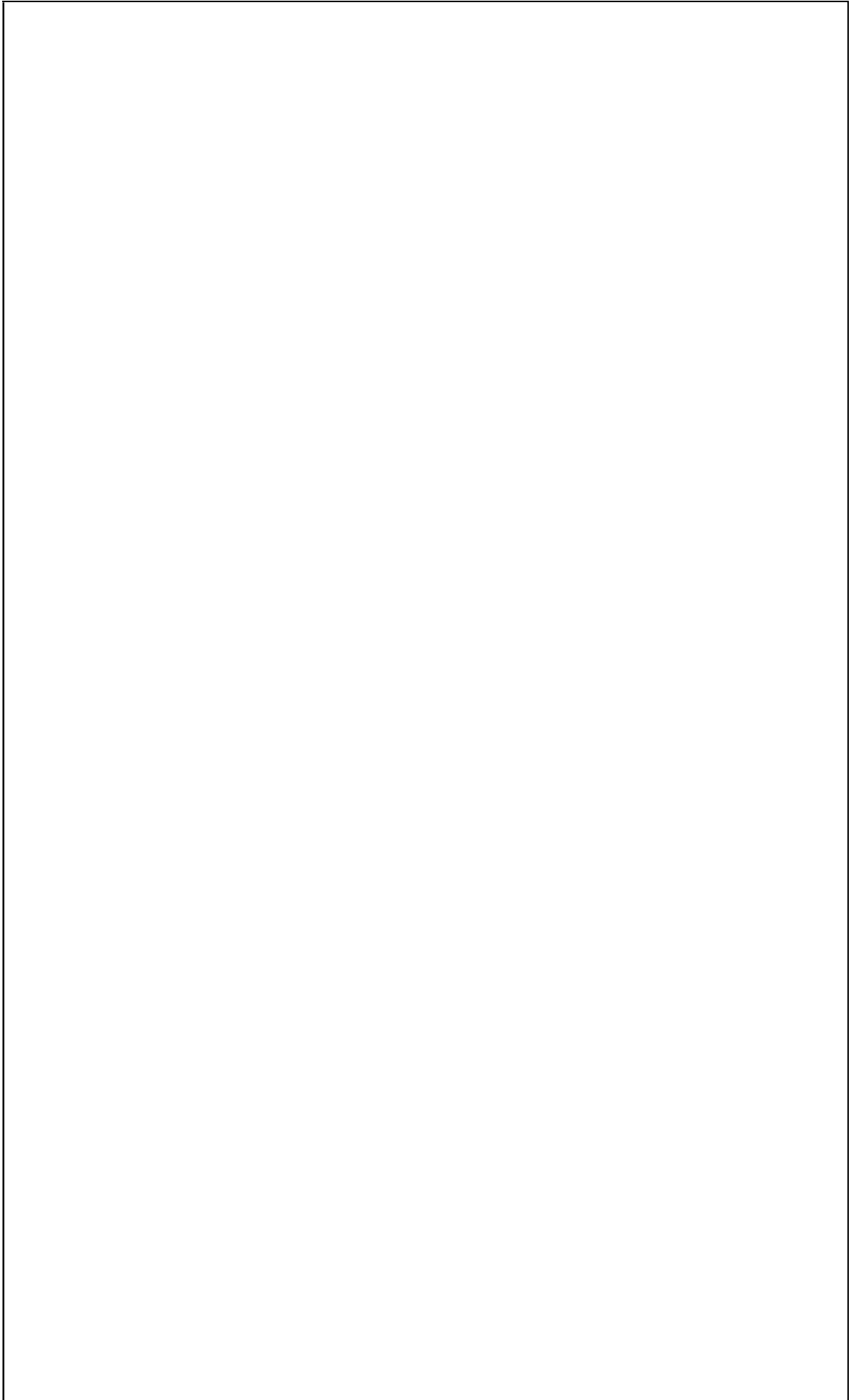
勝浦漁港は生まぐろの水揚が全国随一であることから、平成30年に「勝浦漁港にぎわい市場」（地方創生拠点整備交付金事業）を開設し、令和5年度は年間151,320人が来場した。

浦神地区は、隣接する串本町との境界に日本初の民間ロケット発射場が開設され、年間20発の発射が見込まれていることから、新たな地域資源としての期待が大きい。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

第2期浜プランの主な課題の解決と更なる浜の活力再生のため、今後は、既存の漁業の「釣る・採る」のみならず、儲かる漁業として「採って育てる」「いかに売るか」など6次産業化を図る。第3期浜プランにおいては、次のような基本方針をもって、その目的を達成する。

(漁業収入向上のための取組)

I 漁業の安定化・効率化

① 表層型浮魚礁の利用推進

表層型浮魚礁の利用を推進し、カツオ・マグロ類の漁獲量増加による漁業者の所得向上を図る。

② 核となる藻場の造成、食害生物の駆除

近年の海水温上昇の影響により、魚介類の産卵・保護育成等に重要な機能を果たす藻場の回復を図るため、核となる藻場の造成、食害生物の駆除を、専門機関と連携して取り組む。

③ 養殖業の検討及び普及

遊休化した漁港施設を利活用し、カキ養殖の検討及び普及に取り組む。

④ 漁業のDX化の推進

定置網の内部の状況把握に水中ドローンを活用し、業務の改善に取り組む。

II 漁獲物の販売促進

① 海産物を活用したシティープロモーション

シーフードショーや、イベントへの出店に取り組むことで販売促進と海業収入の確保を図る。

② 流通の効率化による鮮度維持及び付加価値向上

新たに建設される高速道路による流通の効率化により、付加価値の向上を図る。

(漁業コスト削減のための取組)

I コスト削減

① 船底清掃や減速航行による燃料コストの削減

② 漁具・機器・設備等のメンテナンス実施によるコスト削減

(漁村の活性化のための取組)

I 漁村の活性化

① ロケット発射を活用した漁村の活性化

ロケット発射時に海産物の非常設直売所の設置による漁村への来訪者の増加を図る。

② 勝浦漁港にぎわい市場の活用

マグロ類の販売推進を行い、来場者数の増加を図り、漁村の活性化を図る。

II 新規漁業就業者対策

① 県や県漁連、ハローワーク等と連携した地域内外からの新規就業者獲得を図る。

(3) 資源管理に係る取組

(漁業法、和歌山県漁業調整規則、漁業権行使規則の遵守等)

沿岸有用資源の種苗放流に加え、禁漁区や採捕期間の設定を行い、町内各組合員において資源管理の規定を遵守する。

定置網漁業（大型定置）は年間2ヶ月の休漁期間を設ける。

刺網（イセエビ）について、漁具（網）の種類、大きさ、数等を自主規制し、操業日

数は年間上限90日とする。また、120g/尾以下はリリースする。

採貝漁について、年間操業日数を45日に制限すると共に、アワビについては殻長10cm以下、トコブシでは殻長4.5cm以下をリリースする。加えて、刺網、採貝、ナマコ漁を通じて、禁漁区域を設定するなどの規制を実施する。

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比） 3.70%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(漁業収入向上のための取組)</p> <p>I 漁業の安定化・効率化</p> <p>① 町内漁協は、表層型浮魚礁の利用頻度及び、利用する組合員数を増やし、カツオ・マグロ類の漁獲量向上による所得の向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町水産振興会（町内漁協と行政機関等が組織する町内の水産業および、関連産業の総合的振興を促進する団体）は、町内沿岸域の藻場造成活動に取り組み町内漁業の採貝・採藻漁業を営む漁業者の所得向上を図る。また、専門家の意見を取り入れ、新たな藻場の造成・保全を実施する。</p> <p>③ 和歌山東漁協町内支所では、カキ養殖業の普及を行い、所得の向上を図る。専門家を派遣し、他地域の成功事例等を反映させる。</p> <p>④ 宇久井漁協は、定置網漁業で水中ドローンを活用し、作業の効率化による所得の向上を図る。</p> <p>II 漁獲物の販売促進</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協、県漁連は、シティープロモーションの一環として町内で水揚げされたマグロ類やブリ、イセエビ等の海産物のブランディングを行い、魚価の向上を目指す。また、ロケット発射時などのイベントに合わせて海産物直売所での地元水産物の販売に取り組むことで、販売促進と漁業者の収入増加を図る。</p> <p>② 町内漁協及び県漁連は、新宮紀宝道路の開通を契機に関東・東海エリアへの流通効率化を図る。また、鮮度維持技術の検討により魚価の向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>I コスト削減</p> <p>① 全漁業者は第2期浜プランに引続き、船底清掃を年に1～5回行う。</p> <p>② 那智勝浦町は、町内漁協の漁具倉庫及び作業場の整備に補助を行い、漁具及び機器のメンテナンスの拡充を促す。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>I 漁村の活性化</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協は、近隣発射場より発射されるロケットの打ち上げ予定日に合わせて地元海産物の直売や情報発信を行い、漁村への来村者の誘客及びリピーターの向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町は、「勝浦漁港にぎわい市場」でのマグロ類の販売を推進し、来場者数の向上による漁村の活性化を図る。</p> <p>II 新規漁業就業者対策</p> <p>① 那智勝浦町は、県や県漁連、ハローワーク等と連携した地域内外からの新規就業者獲得を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>海業取組促進事業（国） 沿岸漁業の再生を目指した漁場整備事業（県） 魚貝類放流事業（町）</p>

2年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）6.17%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(漁業収入向上のための取組)</p> <p>I 漁業の安定化・効率化</p> <p>① 町内漁協は、表層型浮魚礁の利用頻度及び、利用する組合員数を増やし、カツオ・マグロ類の漁獲量向上による所得の向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町水産振興会は、町内沿岸域の藻場造成活動に取り組み町内漁業の採貝・採藻漁業を営む漁業者の所得向上を図る。また、専門家の意見を取り入れ、新たな藻場の造成・保全を実施する。</p> <p>③ 和歌山東漁協町内支所では、カキ養殖業の普及を行い、所得の向上を図る。専門家を派遣し、他地域の成功事例等を反映させる。</p> <p>④ 宇久井漁協は、定置網漁業で水中ドローンを活用し、作業の効率化による所得の向上を図る。</p> <p>II 漁獲物の販売促進</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協、県漁連は、シティープロモーションの一環として町内で水揚げされたマグロ類、ブリ、イセエビ等の海産物のブランディングを行い、魚価の向上を目指す。また、ロケット発射時などのイベントに合わせて海産物直売所での地元水産物の販売に取り組むことで、販売促進と漁業者の収入増加を図る。</p> <p>② 町内漁協及び県漁連は、新宮紀宝道路の開通を契機に関東・東海エリアへの流通効率化を図る。また、鮮度維持技術の試行により魚価の向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>I コスト削減</p> <p>① 全漁業者は第2期浜プランに引続き、船底清掃を年に1～5回行う。</p> <p>② 那智勝浦町は、町内漁協の漁具倉庫及び作業場の整備に補助を行い、漁具及び機器のメンテナンスの拡充を促す。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>I 漁村の活性化</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協は、近隣発射場より発射されるロケットの打ち上げ予定日に合わせて地元海産物の直売や情報発信を行い、漁村への来村者の誘客及びリピーターの向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町は、「勝浦漁港にぎわい市場」でのマグロ類の販売を推進し、来場者数の向上による漁村の活性化を図る。</p> <p>II 新規漁業就業者対策</p> <p>① 那智勝浦町は、県や県漁連、ハローワーク等と連携した地域内外からの新規就業者獲得を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>豊かな海づくり推進事業（国） 沿岸漁業の再生を目指した漁場整備事業（県） 魚貝類放流事業（町）</p>

3年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）8.65%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(漁業収入向上のための取組)</p> <p>I 漁業の安定化・効率化</p> <p>① 町内漁協は、表層型浮魚礁の利用頻度及び、利用する組合員数を増やし、カツオ・マグロ類の漁獲量向上による所得の向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町水産振興会は、町内沿岸域の藻場造成活動に取り組み町内漁業の採貝・採藻漁業を営む漁業者の所得向上を図る。また、専門家の意見を取り入れ、新たな藻場の造成・保全を実施する。</p> <p>③ 和歌山東漁協町内支所では、カキ養殖業の普及を行い、所得の向上を図る。専門家を派遣し、他地域の成功事例等を反映させる。</p> <p>④ 宇久井漁協は、定置網漁業で水中ドローンを活用し、作業の効率</p>
---------------------	---

	<p>化による所得の向上を図る。</p> <p>II 漁獲物の販売促進</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協、県漁連は、シティープロモーションの一環として町内で水揚げされたマグロ類、ブリ、イセエビ等の海産物のブランディングを行い、魚価の向上を目指す。また、ロケット発射時などのイベントに合わせて海産物直売所での地元水産物の販売に取り組むことで、販売促進と漁業者の収入増加を図る。</p> <p>② 町内漁協及び県漁連は、すさみ串本道路の開通を契機に京阪神エリアへの流通効率化を図る。また、鮮度維持技術の試行により魚価の向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>I コスト削減</p> <p>① 全漁業者は第2期浜プランに引続き、船底清掃を年に1～5回行う。</p> <p>② 那智勝浦町は町内漁協の漁具倉庫及び作業場の整備に補助を行い、漁具及び機器のメンテナンスの拡充を促す。</p>
漁村の活性化のための取組	<p>I 漁村の活性化</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協は、近隣発射場より発射されるロケットの打ち上げ予定日に合わせて地元海産物の直売や情報発信を行い、漁村への来村者の誘客及びリピーターの向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町は、「勝浦漁港にぎわい市場」でのマグロ類の販売を推進し、来場者数の向上による漁村の活性化を図る。</p> <p>II 新規漁業就業者対策</p> <p>① 那智勝浦町は、県や県漁連、ハローワーク等と連携した地域内外からの新規就業者獲得を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>豊かな海づくり推進事業（国）</p> <p>沿岸漁業の再生を目指した漁場整備事業（県）</p> <p>魚貝類放流事業（町）</p>

4年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比） 11.14%

漁業収入向上のための取組	<p>（漁業収入向上のための取組）</p> <p>I 漁業の安定化・効率化</p> <p>① 町内漁協は、表層型浮魚礁の利用頻度及び、利用する組合員数を増やし、カツオ・マグロ類の漁獲量向上による所得の向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町水産振興会は、町内沿岸域の藻場造成活動に取り組み町内漁業の採貝・採藻漁業を営む漁業者の所得向上を図る。また、専門家の意見を取り入れ、新たな藻場の造成・保全を実施する。</p> <p>③ 和歌山東漁協町内支所では、カキ養殖業の普及を行い、所得の向上を図る。専門家を派遣し、他地域の成功事例等を反映させる。</p> <p>④ 宇久井漁協は、定置網漁業で水中ドローンを活用し、作業の効率化による所得の向上を図る。</p> <p>II 漁獲物の販売促進</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協、県漁連は、シティープロモーションの一環として町内で水揚げされたマグロ類、ブリ、イセエビ等の海産物のブランディングを行い、魚価の向上を目指す。また、ロケット発射時などのイベントに合わせて海産物直売所での地元水産物の販売に取り組むことで、販売促進と漁業者の収入増加を図る。</p> <p>② 町内漁協及び県漁連は、すさみ串本道路の開通を契機に京阪神エリアへの流通効率化を図る。また、鮮度維持技術の試行により魚価の向上を目指す。</p>
--------------	--

漁業コスト削減のための取組	<p>I コスト削減</p> <p>① 全漁業者は第2期浜プランに引続き、船底清掃を年に1～5回行う。</p> <p>② 那智勝浦町は、町内漁協の漁具倉庫及び作業場の整備に補助を行い、漁具及び機器のメンテナンスの拡充を促す。</p>
漁村の活性化のための取組	<p>I 漁村の活性化</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協は、近隣発射場より発射されるロケットの打ち上げ予定日に合わせて地元海産物の直売や情報発信を行い、漁村への来村者の誘客及びリピーターの向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町は、「勝浦漁港にぎわい市場」でのマグロ類の販売を推進し、来場者数の向上による漁村の活性化を図る。</p> <p>II 新規漁業就業者対策</p> <p>① 那智勝浦町は、県や県漁連、ハローワーク等と連携した地域内外からの新規就業者獲得を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>豊かな海づくり推進事業（国）</p> <p>沿岸漁業の再生を目指した漁場整備事業（県）</p> <p>魚貝類放流事業（町）</p>

5年目（令和11年度） 所得向上率（基準年比）13.63%

漁業収入向上のための取組	<p>（漁業収入向上のための取組）</p> <p>I 漁業の安定化・効率化</p> <p>① 町内漁協は、表層型浮魚礁の利用頻度及び、利用する組合員数を増やし、カツオ・マグロ類の漁獲量向上による所得の向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町水産振興会は、町内沿岸域の藻場造成活動に取り組み町内漁業の採貝・採藻漁業を営む漁業者の所得向上を図る。また、専門家の意見を取り入れ、新たな藻場の造成・保全を実施する。</p> <p>③ 和歌山東漁協町内支所では、カキ養殖業の普及を行い、所得の向上を図る。専門家を派遣し、他地域の成功事例等を反映させる。</p> <p>④ 宇久井漁協は、定置網漁業で水中ドローンを活用し、作業の効率化による所得の向上を図る。</p> <p>II 漁獲物の販売促進</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協、県漁連は、シティープロモーションの一環として町内で水揚げされたマグロ類、ブリ、イセエビ等の海産物のブランディングを行い、魚価の向上を目指す。また、ロケット発射時などのイベントに合わせて海産物直売所での地元水産物の販売に取り組むことで、販売促進と漁業者の収入増加を図る。</p> <p>② 町内漁協及び県漁連は、紀伊半島道路の開通を契機に関東・東海エリアへの流通効率化を図る。また、鮮度維持技術の試行により魚価の向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>I コスト削減</p> <p>① 全漁業者は第2期浜プランに引続き、船底清掃を年に1～5回行う。</p> <p>② 那智勝浦町は、町内漁協の漁具倉庫及び作業場の整備に補助を行い、漁具及び機器のメンテナンスの拡充を促す。</p>
漁村の活性化のための取組	<p>I 漁村の活性化</p> <p>① 那智勝浦町及び町内漁協は、近隣発射場より発射されるロケットの打ち上げ予定日に合わせて地元海産物の直売や情報発信を行い、漁村への来村者の誘客及びリピーターの向上を図る。</p> <p>② 那智勝浦町は、「勝浦漁港にぎわい市場」でのマグロ類の販売を推進し、来場者数の向上による漁村の活性化を図る。</p>

	II 新規漁業就業者対策 ① 那智勝浦町は、県や県漁連、ハローワーク等と連携した地域内外からの新規就業者獲得を図る。
活用する支援措置等	豊かな海づくり推進事業（国） 沿岸漁業の再生を目指した漁場整備事業（県） 魚貝類放流事業（町）

(5) 関係機関との連携

<ul style="list-style-type: none"> ・密漁対策について、和歌山県、和歌山県警、海上保安部他必要な機関と連携して取り組む。 ・ロケット発射を契機とした活動について、那智勝浦町水産振興会・スペースポート紀伊周辺地域協議会・町内漁協・旅行代理店他必要な機関と連携して取り組む。 ・勝浦漁港にぎわい市場について、指定管理受託者・那智勝浦観光機構他必要な機関と連携して取り組む。 ・新規就業者関係について、県・県漁連・ハローワーク他必要な機関と連携して取り組む。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

<p>浜プランの取組の成果を評価・分析するため、委員会は、毎年度6月頃に部会を開催し、取組の状況を確認・評価した上で、次年度の取組の改善につなげる。</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

①所得向上の取組に係る成果目標

カツオ・マグロ類の単価向上	基準年	令和元年～令和5年度の 5中3平均：	806.7円	(円/Kg)
	目標年	令和11年度：	814.8円	(円/Kg)

②漁村活性化の取組に係る成果目標

勝浦漁港にぎわい市場 来場者数	基準年	令和元年～令和5年度の 5中3平均：	100,768	(人)
	目標年	令和11年度：	217,191	(人)

浦神見学場来場者数	基準年	令和6年度：	5,000	(人)
	目標年	令和11年度：	30,000	(人)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>①所得向上の取組に係る成果目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カツオ・マグロ類の単価向上を目標とし、基準値は過去5年間の平均単価（5中3平均）とした。ブランディング及び流通技術の向上による単価向上の取組により、令和11年度には基準値から1%向上させた814.8円/kgを見込む。 <p>②漁村活性化の取組に係る成果目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい市場における過去5年間の来場者数（5中3平均）を基にし、今期取組の効果や過去の増減率を踏まえ、令和11年度には217,191人の来場者数を見込む。 ・旧浦神小学校にある浦神発射見学場（収容人数2,500人）は、過去2回のロケット発射時に満員となった。今後も発射時は同様の来場者数が訪れると想定され、令和11年には年間12回の打ち上げを見込む。
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
(国) 海業取組促進事業	那智漁港及び浦神地区のロケット打ち上げを契機とする漁村の活性化計画・実証実験について（1年目）
(国) 豊かな海づくり推進事業	那智漁港海藻バンク及びブルービーチ那智藻場保全活動（2年目以降）
(県) 沿岸漁業の再生を目指した漁場整備	高水温適性株を使用した藻場移植
(町) 魚貝類放流事業	魚貝類の稚魚・稚貝放流